

「マドンナ旋風」から25年

女性初の主要政党政首、衆院議長として時代を切り開いた土井たか子さん死去の発表から一夜明け、安倍政権が「女性の活躍」を掲げる臨時国会が始まった。土井さんが起こした「マドンナ旋風」から25年。関連法案も出される今国会で、社会や政界への女性進出をどう進めるのか。与野党を超えた議論が求められそうだ。

議員の比率が上がらず

「女性の活躍は社会の閉塞感を打ち破る大きな原動力となる」。安倍首相は29日の所信表明演説でこう訴えた。

政界での女性登用を先駆的に実践した土井氏は、1989年の参院選で社会党委員長として多くの女性を当選させる「マドンナ旋風」を巻き起こした。社民党の福島瑞穂前党首は「政治は男だけの世界ではない」と、次の世代に大きな影響を与えた」と評価する。ただ、この時当選した女性議員は以降の選挙で落選。その後も女性議員の比率は一向に上がらず、現在、衆院議員に占める女性の比率は約8%。昨年の世界経済フォーラムの男女平等度では日本は136カ国中105位だ。

「土井チルドレン」の一人、民主党の辻元清美衆院議員は「マドンナ

旋風の後、小泉純一郎元首相の「刺客」、『小沢ガールズ』など女性議員が誕生する動きがあった。だが、派手な一過性の力に頼らず、地道な活動で力をつけるしか女性議員を増やす近道はない」と語る。

土井氏も女性議員をブームで終わらせないよう、96年に社民党党首になってから、市民活動などで長く実績があった女性を擁立。福島氏や辻元氏らは今も国会議員を続ける。

「理念」と「経済」対極

安倍首相は「女性が輝く社会」が日本の活力になると訴える。福島氏は「意思決定の場にもっと女性を」という点は土井さんの考えと共通している」と認めつつ、「土井さんは社会民主主義者で『強きをくじき、弱きを助け』との視点で女性全体の底上げを図ろうとした。安倍政権は、男並みに働く、ほんの一握りの輝く女性を応援するかのようだ」と指摘する。

自民党の野田聖子前総務会長は、土井氏の「男女平等という理念」と、首相の「経済全体のパイの拡大」という考え方は、同じ「女性の活躍」でも対極にあると分析する。「今は女性も経済力をつけたいといけない時代になっている。女性重視をめぐる2人の対極的な考え方が、うまく収斂されれば良いと思う」と話す。

(江口達也、明葉麻子)

「女性活躍」おたかさんなら